



となん

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成

【学校教育目標】

[知] 自ら学ぶ意欲を持つ生徒

[徳] 豊かな心を持つ生徒

[体] 健康でねばり強い生徒



さきやまようしゅう

発行者：校長 崎山 用彰



☆「QRコード」はデンソーウェブの
登録商標です(下地中学校HPへ)

暑中お見舞い申し上げます

盛夏の候、地域の皆様、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動に対し、温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

夏休みに入り、子どもたちは学習や部活動、地域行事など、それぞれの目標に向かって充実した日々を過ごしていることと思います。長い休みは心と体を成長させる貴重な機会です。健康と安全を第一に、さまざまな経験を通して「最高の夏休み」にしてほしいと願っています。



まだまだ厳しい暑さが続きます。皆様におかれましても、熱中症対策を十分に行い、お健やかに過ごしてください。今後とも下地中学校への変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

夏休みの出来事あれこれ

夏休みも折り返し地点を過ぎ、後半に入りました。ここで、「夏休みの出来事あれこれ」を紹介します。

【県中体連夏季総体】

7/21(火)

★軟式野球：エナジックスタジアム名護

「宮古」vs「白保(八重山地区代表)」

延長9回タイブレークの末、7-8で惜敗。

★女子バレーボール：読谷中学校

「下地」vs「伊良波(島尻地区代表)」

途中リードする場面もありましたが、あと1歩及ばず0-2で敗退。



【県吹奏楽コンクール】

7/26(日)

☆吹奏楽部：沖縄コンベンションセンター劇場棟

中学生Bパートの部

「フラワー・クラウン」

金富先生の指揮で、演奏を披露しました。

結果は、「奨励賞」でした。



7/23(木)

「作家の東野圭吾さん逝去」

日本を代表するミステリー作家・東野圭吾さんが2026年7月23日に逝去されました。その事実が公表されたのは、7月27日のことでした。

死因は大腸がんで、数年前から闘病を続けていたそうです。7月27日の夜、店頭に並ぶより一足先に手元に届いていた『永遠の記憶』——。

関連記事を②に紹介します。

【宮古島市子ども議会】

7/31(金) 生徒会執行部から、友利伸之介さん、下地瑛太さんが出席



伸之介さんは「自転車の青切符制度について」

瑛太さんは「レークेशन導入について」それぞれ質問をしました。

◎『『かわみつ食堂』メニューどれも一杯無料券』も利用しましょう。

東野圭吾さんの訃報に接し、深い悲しみを覚えています。

「容疑者Xの献身・ガリレオシリーズ」「マスカレードホテルシリーズ」をはじめ、数多くの作品は世代や国境を越えて多くの読者を魅了してきました。

人間の心の奥底にある葛藤や優しさを鋭く描きながら、エンターテインメントとしても第一級の作品を生み出し続けた功績は計り知れません。

常に読者を大切に、「もっと読みたい」と思わせる物語を届け続けた作家でした。

残された作品はこれからも多くの人々に読み継がれ、その輝きが失われることはないでしょう。心から哀悼の意を表するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。



その名を読者が信頼し、新作を心待ちにする。23日に68歳で亡くなった東野圭吾さんはそんな人気作家だった。残された数々のベストセラーはその証しといっている。新刊「永遠の記憶」の刊行を8月に控えていただけに、訃報は驚きとともにもたらされた。

(23面参照)

評伝

東野圭吾さん

インタビュに答える東野圭吾さん 2004年3月

罪を犯す人間の境遇や内面を徹底的に掘り下げて表現した。その人物がいかに悩み、苦しんだかを書き、しかも読み始めたらやめられないエンターテインメント性と両立させる。話しふりには自負がに

えが返ってきた。

罪を犯す人間の境遇や内面を徹底的に掘り下げて表現した。その人物がいかに悩み、苦しんだかを書き、しかも読み始めたらやめられないエンターテインメント性と両立させる。話しふりには自負がに

えが返ってきた。

罪を犯す人間の境遇や内面を徹底的に掘り下げて表現した。その人物がいかに悩み、苦しんだかを書き、しかも読み始めたらやめられないエンターテインメント性と両立させる。話しふりには自負がに

えが返ってきた。

罪を犯す人間の境遇や内面を徹底的に掘り下げて表現した。その人物がいかに悩み、苦しんだかを書き、しかも読み始めたらやめられないエンターテインメント性と両立させる。話しふりには自負がに

えが返ってきた。

罪を犯す人間の境遇や内面を徹底的に掘り下げて表現した。その人物がいかに悩み、苦しんだかを書き、しかも読み始めたらやめられないエンターテインメント性と両立させる。話しふりには自負がに

えが返ってきた。

性悪説で人間の本性描く

東野圭吾さんの主な作品 (数字は刊行年)

1985年	◆放課後
86年	◆卒業
98年	◆探偵ガリレオ ◆秘密
99年	◆白夜行
2003年	◆手紙
05年	◆容疑者Xの献身
08年	◆流星の絆
09年	◆新参者
11年	◆マスカレード・ホテル
12年	◆ナミヤ雑貨店の奇蹟
13年	◆祈りの幕が下りる時

「頭の中にあるのは、読者を楽しませるものを書く、もっと読みたいと思ってもらえる作家を目指す、ということだけです」。2023年に紫綬褒章を受けた時のコメント通りの作家人生を送った。

人前では口数が少ないと思われていたが、09年に日本推理作家協会の理事長になった時は違った。「質問には愛想良く答えた」と照れながら就任会見に臨んだ。

「超」が付く売れっ子にもかわらず、直木賞の選考委員も務め、業界が不況に直面する中で、文学・出版界を支える役回りを引き受けた。昨

年は「子どもたちに、読書の喜びや楽しみを知るきっかけとなる作品を届けたい」と、絵本も刊行している。

信頼を裏切らないよう心血を注いだ作品は、国内外で多くの人に愛読される。韓国や中国をはじめ海外でも受け入れられた。作家と読者のこの上なく良い関係を築いた。

次作の東野作品が楽しみ。そう言えなくなったと惜しむ人がどれほど多いことだろう。(共同通信編集委員 杉本新)

多くのシリーズ映像化

東野圭吾さんは娯楽性にこだわって、ヒットシリーズを生み出してきた人気作家だ。シ

1980年代から書き続けてきた代表作の一つが加賀恭一郎シリーズ。警視庁刑事の加賀が活躍する物語で、シ